

黄昏ノ夢

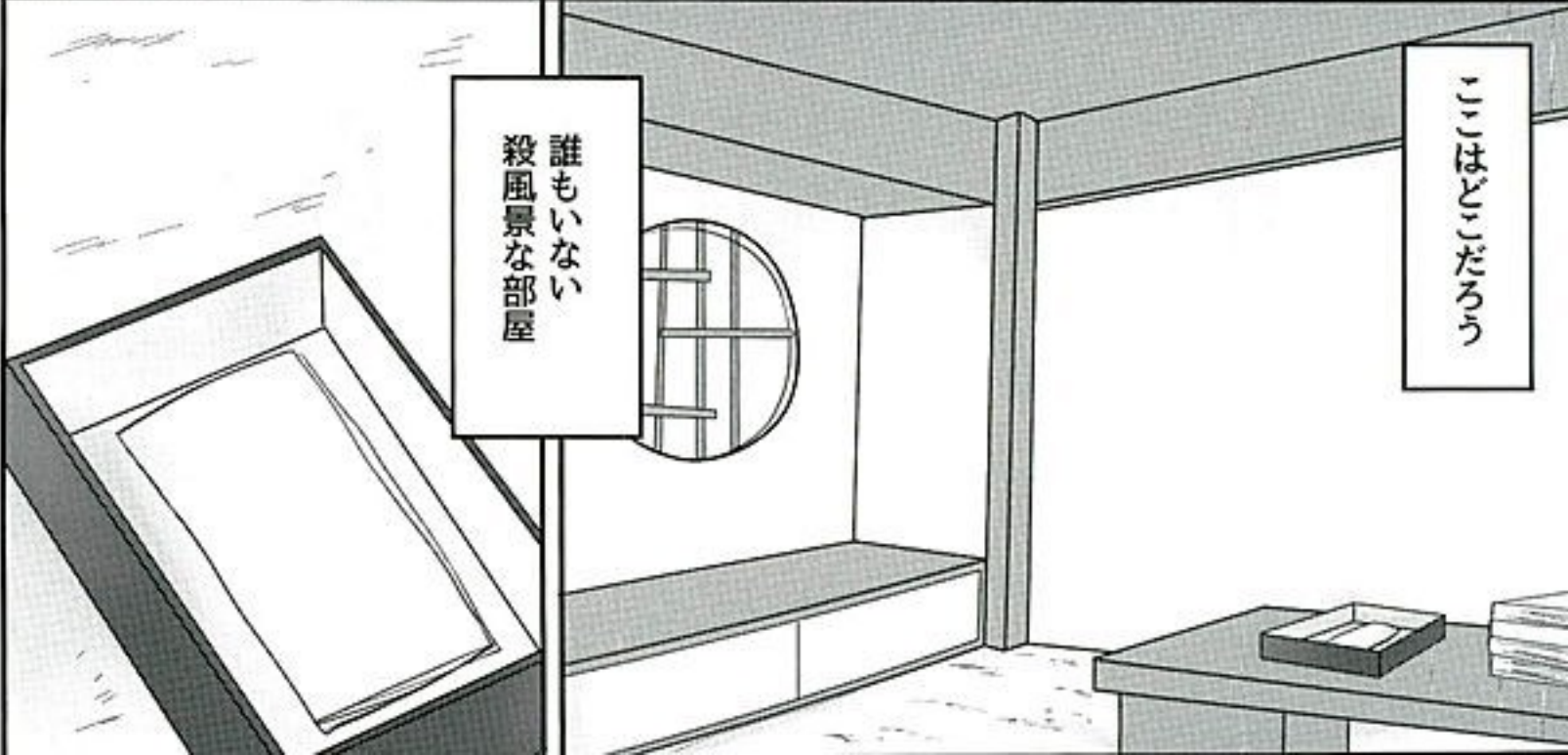
成人向





この本は本編（暗夜編）とタクミ×カムイ支援とマイルームのセリフパレが大量に含まれています。これらを全てプレイしてからこの本を読むことを強くお勧めします。

また、性描写が大量に含まれているため、十八歳未満の閲覧・所持を禁じます。



ここはどこだろう

誰もいない
殺風景な部屋

手紙……？

誰かに渡すにはは
汚れすぎている

インクの汚れや
しわも目立つ

カムイ様
その手紙をお読みに
なってください

！

これは……私が読んでも
良いのですか？
私は暗夜王国の王女なのに

この手紙はどう見ても
白夜王国のものだ

僕が僕である内に
この書を記す。

私は白夜王国を裏切った身
今更この国と関わることなど……

……

『思えば僕は
生まれてからあの人と
一緒だった』

どうして……

年が近いからと
いつも一緒に遊んでいた

僕たちは仲が
良かったらしい

人形遊びをしたり
花を摘んだり
絵を描いたり…

僕には断片的にしか
思い出せないが

楽しかったことだけは
今でも覚えている

カムイ姉さん

カムイ姉さん！

ハッ…！
タクミさん！

姉さんったら…
いつまで寝てるつもり？

…夢…

え？

気になる夢を見たんです

一人で手紙を読むだけの
静かな夢なのですが

その手紙はインクや
しわで汚れていて

それなのに内容は
小さな子供たちが
仲良く遊んでいたという
微笑ましいものでした

それに…
私が手紙を読んでいた部屋は
確かに白夜のものでした

タクミさんは
何か知りませんか？
白夜にそのような
手紙があったとか…

手紙…？
そんなのではないと
思うけど…

それにしても
手紙を読むだけなんて
変な夢だね

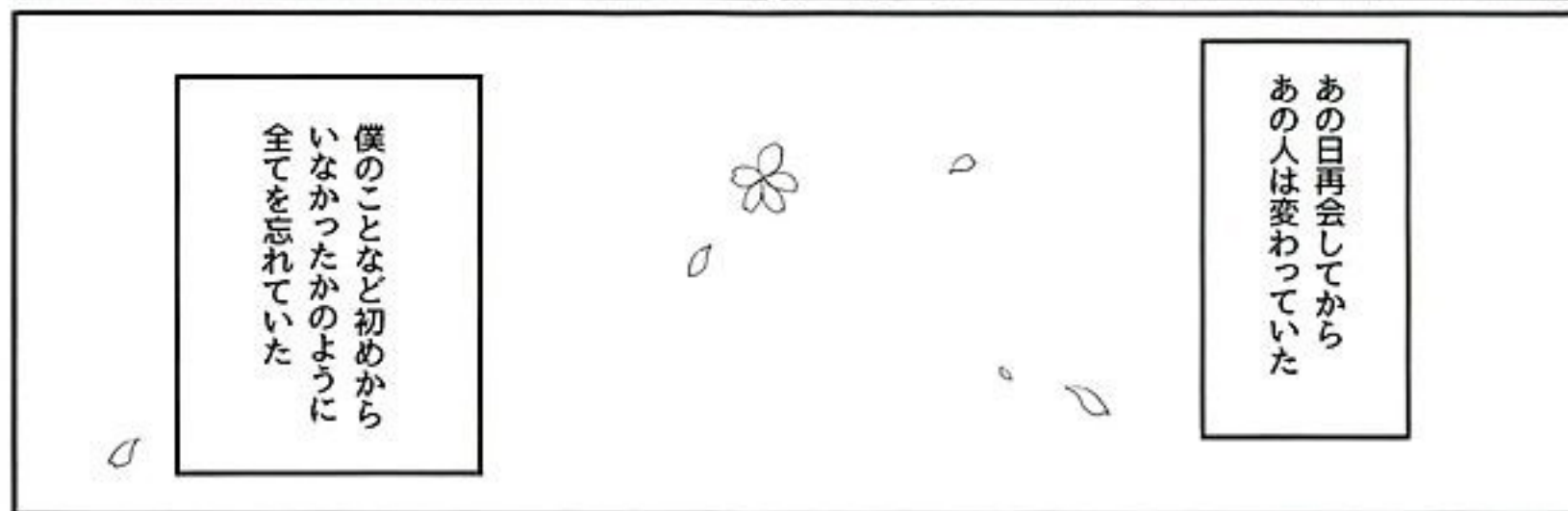


はい…とても…
不思議な夢でした

またこの部屋

そして同じ手紙

私はまたこの手紙を
読み続ける



あの日再会してから
あの人は変わっていた

僕のことなど初めから
いなかったかのように
全てを忘れていた



それなのにあの人は
僕たちのことなど
覚えてはいなかった

僕はまたあの人が
帰ってくるように願った

あの人がいなくなつて
僕の周りが
変わってしまった



このとき
僕は初めて『あの人』を
恨めしく思った



あの人が帰ってきたとき
僕は母上から一通の
手紙を渡されていた

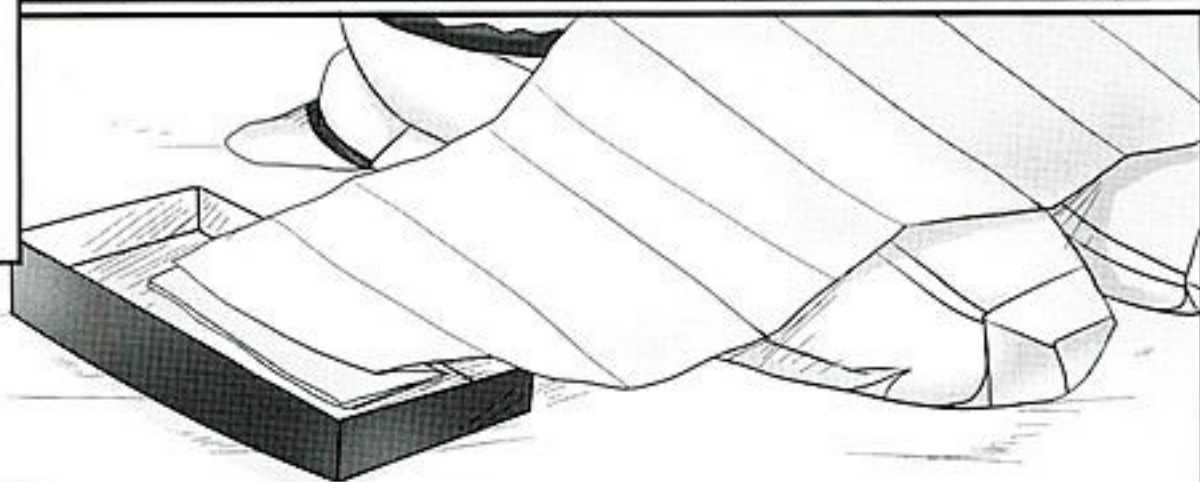
恋に悩んだら読め
と言われた

この手紙の人は
『あの人』を恨んでる…？

あの人が帰ってきたことと
僕の恋に何の関係が
あるのだろうか

後にあの人のせいで
これが母上の最後の手紙と
なってしまっても知らず

僕は母上の手紙を
読まずに箱に仕舞った



手紙の下に別の手紙…
これが母上からの
手紙なのだろうか

！

一体何が書かれて
いるのですか…？

また…夢…


ここ毎日
私は同じ夢を見た

手紙を読み進める度に
だんだんとこの手紙を書いた者の
輪郭が見えてきた

『あの人』とはこの手紙の主と
白夜で過ごしていたが
幼い頃に行方不明となり
後に再会した人物と書かれている

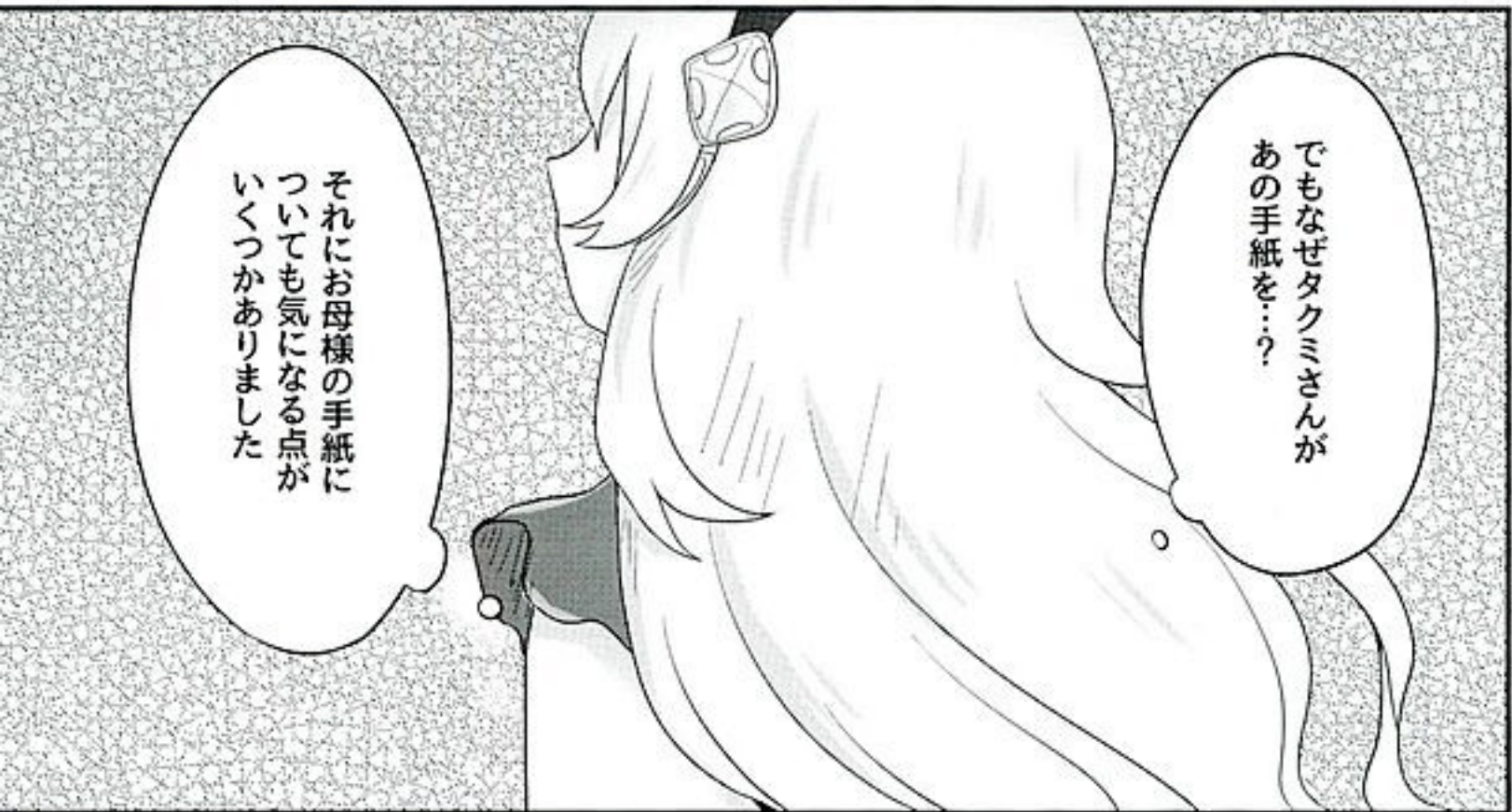
それはおそらく
私のことだろう

そして再会した『あの人』に
恨み言をぶつけた人が
この手紙を書いた者




この手紙は
彼が書いたものだ

手紙の筆跡を思い出ししても
彼の性格を表した字で
書かれていた



でもなぜタクミさんが
あの手紙を…？

それにお母様の手紙に
ついても気になる点が
いくつかありました



次に会ったときに
尋ねてみよう

この夢について
わかるかもしれない

随分と長い手紙だ


これを書くのに
どれほどの時間か
かかったのだろう

ここから先が
読めなくなってる…

読み取れる
ところまでは…

僕は…あなたと


仲良くしたかった
本当はずっとあなたの
傍にいたかった



あの日…母上の手紙を
読んでしまった僕は
もう今までには戻れない


こんな気持ち知らない方が
良かったんだ

知らなければ……
何も知らずにあなたを
殺せたのに



何も知らなければ
あなたに恨みを抱えたまま
母上殺しの裏切り者として

一生恨んで過ごせたのに



それなのに幼い僕は
あなたを覚えていた

そしてあなたに再会したとき…
裏切られて対立したときでさえ
僕の中でのあなたの気持ちがよみがえった

僕は…本当はずっと
ずっとあなたが…

カムイ姉さんが…

よく見るとこの先は
意図的に塗りつぶされて
いるように見える

これで…この手紙は
おわり？


!

でも…
どうしてこんな
血がついてるの？

違う…この手紙には
まだ続きがある

さよなら


もう一度とあなたに
会うことはないだろう



もしあなたが僕の手を
とってくれたらこんなことには
ならなかったのかな

僕はあなたの傍で
笑えてたのかな


もう何もわからない



僕はどうすれば
良かったの？




教えてよ姉さん



この手紙をあなたが読んでいる頃
もう僕はこの世にはいないのだろう

最後にあなたを殺すことしか
できなかった僕を

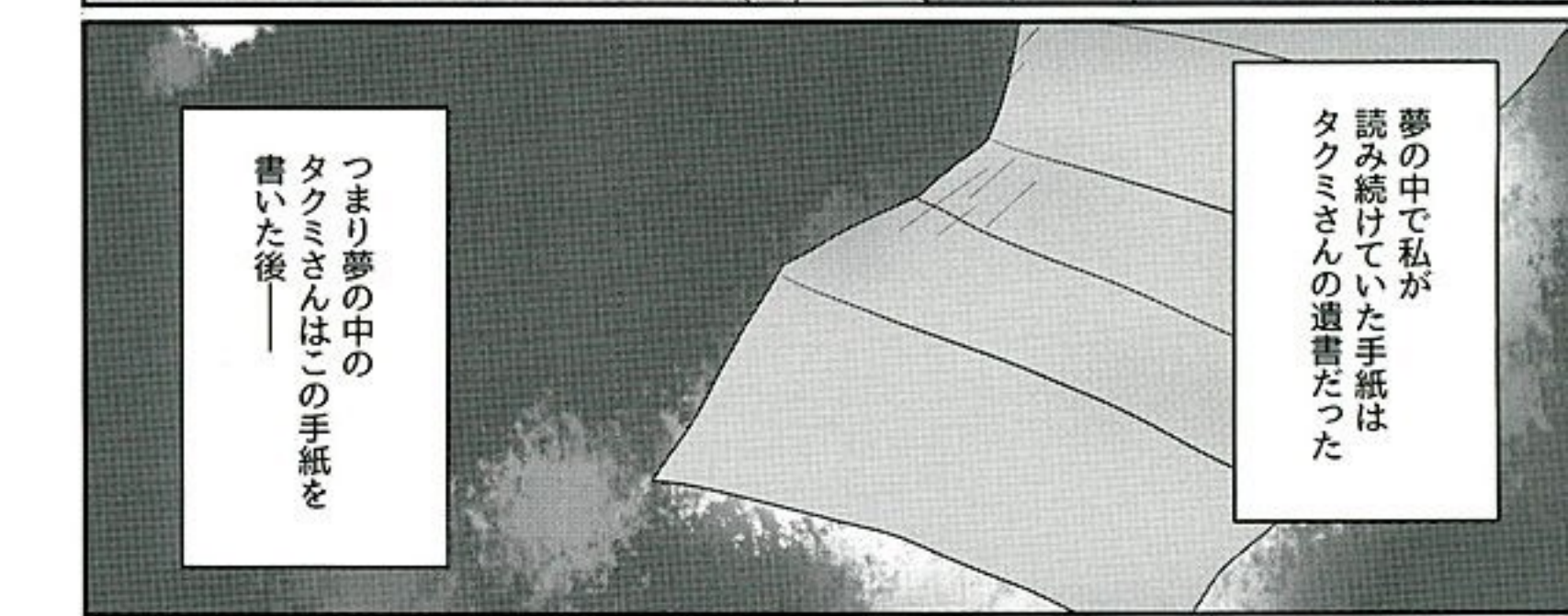
どうか…許して



どうして私は
泣いているのだろう

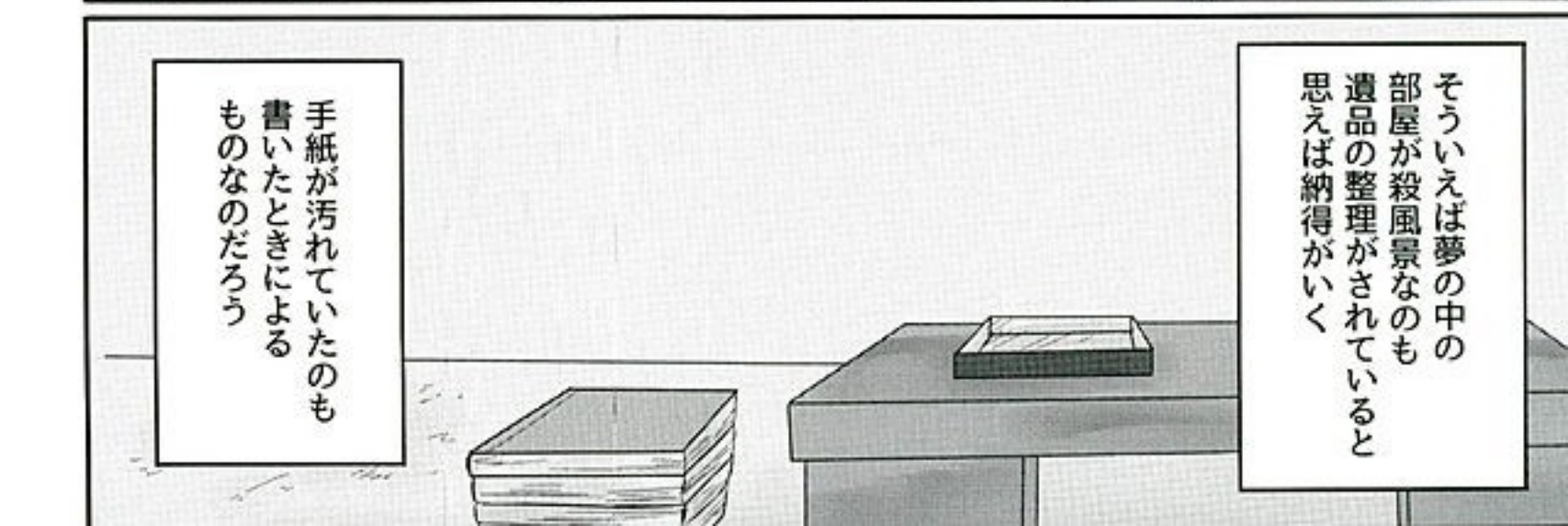
これは夢…夢なのに

あの文を最後に
手紙は終わっていた



夢の中で私が
読み続けていた手紙は
タクミさんの遺書だった

つまり夢の中の
タクミさんはこの手紙を
書いた後――



そういえば夢の中の
部屋が殺風景なもの
遺品の整理がされていると
思えば納得がいく

手紙が汚れていたのも
書いたときによる
ものなのだろう

でも…今の私は
タクミさんの味方だ

それなのにこの夢は
まるで私がタクミさんと
一緒にいない…

タクミさんを裏切った
別の路を選んだかのように
見せてくる

別の…路…？

あの夢は…
別の世界の私…？





姉さん
僕に何か用？

タクミさん…

私が以前
不思議な夢を見た話を
したことを覚えていますか？

ああ…その話？



私にはあの夢が偶然とは
思えないのです

偶然にしては
出来すぎています



それが
どうかしたの？




毎日…私は同じ夢を見ました
あなたが書いたと思われる
手紙を読み続ける夢です

タクミさんは何か
知りませんか？
私が読んだ手紙について

ああ…
やっぱりか


……



最初に姉さんから
夢の話聞いたときから
まさかと思っていたんだけど


どうやら僕の予想は
正しかったみたいだね

……！
どうですか？



僕も以前
僕の部屋で遺書を書き続ける
夢を見たからだよ

姉さんと同じく
毎日毎日



まさかその遺書を
姉さんが読むとは
思わなかったけどね

カムイ姉さん

おそらく僕と姉さんは
時間差で同じ世界の
夢を見ている



つまり僕たちは

「別の世界」の
「同じ記憶」を
持っていることになる



別の世界の
同じ…



…それなら
教えてほしいことが
あるんです

あの遺書の中には
黒く塗りつぶされた
箇所がありました



教えてくださいませんか？



もしタクミさんが
全ての文を知って
いるのなら



……



姉さんは本当に
その部分が知りたいの？

知りたいです

別の世界の僕が
姉さんはどう思っているか
なんて知ってどうするの？
後悔するかもよ？



それでも…
私は知りたいです

私はおそらく…
あの遺書を書いたタクミさんを
救うことができなかった…
そんな気がするんです

それならせめて
今の私の中だけでも
想いを受け止めてほしいんです

どんな恨みの言葉でも
私にとっては大切な
弟でしたから…



そこまで言うなら
教えてあげるよ

夢の中の僕には
随分と優しいんだね
姉さんは

.....



『本当はずっと
ずっとあなたが』

姉さんと僕が見た
夢の内容が一致するなら
僕はこう書いた



好きだった

カムイ姉さんが



目が…
そらせない

逃げるなど
訴えている

!!

カアアアアアッ



幼い頃から年の近い
姉さんと遊んでいた

僕たちは気付くと
いつも一緒にいた

その時から
あなたのことを
綺麗だと思っていた

姉さんが
いなくなるまで

姉さんが
いなくなって気付いた

僕にとって姉さんは
もう「姉」では
なくなっていた

そして姉さんがいなく
なった悲しみと同時に
憎しみが生まれた

それは僕の周りが
変わったからだけじゃない…
僕があなたを騙っていたからだ

好きだ

僕は姉さんが
好きだ

実の姉にこんな気持ち
許されるわけがない

それでも
どうしようもなく

好きなんだ



…だから



別の世界の僕は
許されない想いを抱えたまま
あなたに向き合おうとした

でもそれを僕にとりついた
「何か」が許さなかった

その「何か」は次第に
僕の心を殺していった



では…あの
塗りつぶされた部分は…

こんなこと本来は伝える
べきではなかったから…
僕の心が殺される前に
消した部分だよ



ただひたすらに「カムイを殺せ」
「憎き相手を皆殺しにしろ」と
頭の中に言い続けてきた

これで僕の遺書は
終わりだった

でもあの遺書は
塗りつぶされた先に
続きがあったはず…

姉さんも見たんだね

そうだよ
あの文は最期に
付け加えたものだ

「何か」にとりつかれた僕が
自分の死を予感したときにね

ほんの少し残った
僕の心がこの文を書いた

正気を取り戻すために
自傷したこともある

そして姉さんと戦って
敗れた後

僕は

……ねえ

姉さんは僕のどんな
気持ちでも受け止めるって
言ったよね？

なぜ……？
あれは夢の中の
手紙にあった告白で……

それともこんなことが
書いてあるなんて
思わなかった？

それなら……
姉さんは……あなたは……

この想いを
受け止めてくれるの？

そ……それは
夢の中のタクミさんの
ことで……！

ふーん……

じゃあ夢の中なら
僕の気持ちを
受け入れたの？

!?

ど……ど……ど……



僕は最初に言ったはずだ
「僕たちは別の世界の
記憶を持っている」と

…はい

タクミさんが同じ夢を
見ているというの
もウソではないでしょう

でも！
それとこれとは…！

そこまでわかってるなら
もういいよね


今の僕の記憶は
姉さんに裏切られた
路も知っている

つまり今の僕は…
姉さんに味方をしてもらった
「今」を知っている

夢の中の僕と
同じなんだよ

夢の中のタクミさんは
私に裏切られたことで想いを抱え込んだ


ではもし私が味方をしたら……



姉さん…
僕は今度こそ姉さんに
味方してもらえて
嬉しかったよ

ずっとあなたを
「姉さん」と
呼びたかったから

あなたときょうだいに
なれたから



でも僕はあなたと
きょうだいなれたことで
弟として生きる運命に縛られた

どこまでも僕は
あなたの弟だったんだ



でもそうじゃなかった



別の世界で
離れ離れになった僕は
姉さんといられれば
それでいいと思っていた



ためやめて

今のあなたと
きょうだいとしての関係が……

僕は……僕は……



どれだけ想っても
弟としか見てくれない
あなたがずっと憎らしかった

あなたが傍にいたから
僕は苦しかった



姉さんを
愛しているのに

かシャーン……



はっ……

これから先にすることは
きょうだいとして
どういふことかな……

「母上の手紙を読んでもしまった僕は
もう今までのには戻れない」

つ……タクミさんは……
お母様からの手紙の
内容を知っているんですね

……

知っているよ
内容も何もかもね

あの手紙を読んだから
あなたはこんなことを
しているのですか……?

あの手紙には……
何が書いてあるのですか!?

それは……あなたにも
いつか言わなければ
ならないと思っていた



僕を弟として見ている
あなたには教える
必要がないからだよ



え？



では…

でも教えない



どうしても
教えてほしいなら

今じゃ
僕に抱かれてよ



できなくて
私……

実の弟に
興奮してるの？



歪んでる…
こんな間違ってる…

や…

あ…

……っ！

じ…実の姉に
こんなことをして…

あなたは何とも
思わないのですか…？

4…
僕を悪逆非道みたいに
言わないでほしいんだけど

あまり僕を罵ると
激しく犯すよ？

おか……！？

嫌なら僕の
言いたいと聞いてみる





無理矢理されて
興奮してるの？

!?
そんなこと……!

姉さん

はっ

はあ……ん……

ギン

ん……

ん……

ん……

ふ……!?

ん……

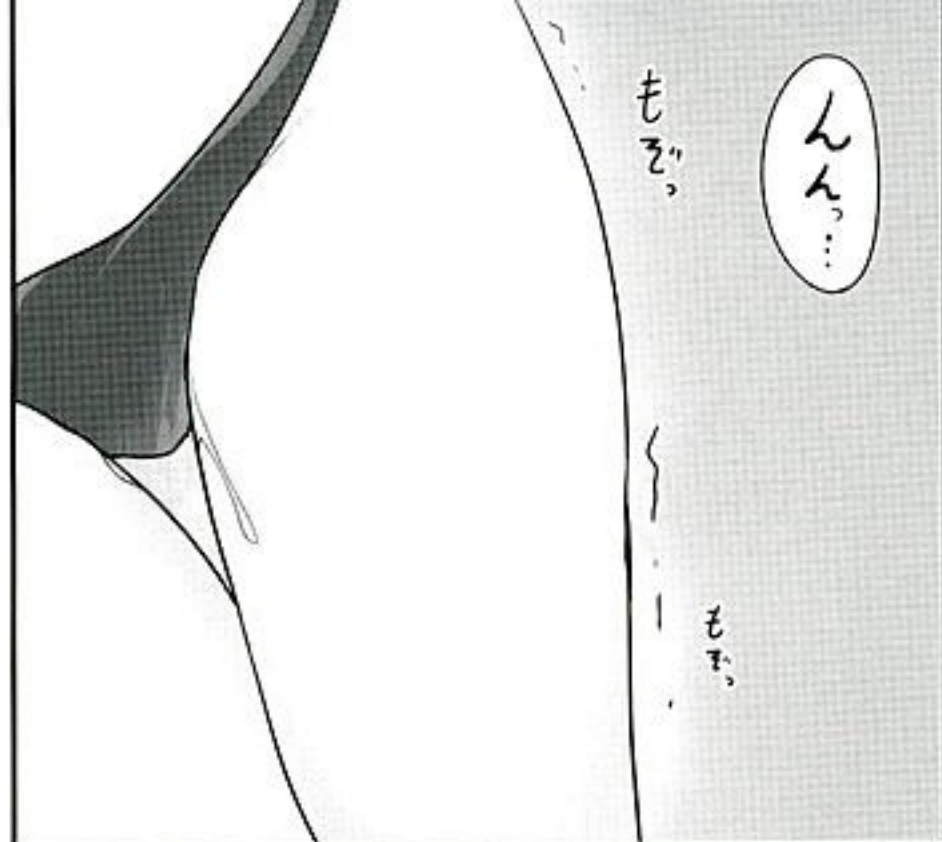
ん……

はっ

ふ……

!?

そんなこと……!





じゃあ自分で脱ぐ?

びん

脱がさないで!

びん

それも嫌…です…



はあ…

頑固だな…姉さんは

!?



やっ?!

ななな何を
するんですか!?

脱ぐのが嫌なら
ずらしてするまでだよ

姉さんの下着は
布面積が少ないから
簡単にずれちゃうよね?

ずらしたまま最後まで
できるんじゃない?

さ…最後まで…?



あぁ…

いいえ、さっさと終わりたい

途中でやめる気はないからね



や…

やめてくださいー！

初めての相手が
実の弟でよかったね

姉さん

私…初めて
なんですよ!?







はっ

か

んんん

んんん

んんん

はあ

んんん

スッ

あっ...わっ...

あああ

!!

あん

あ

あ



僕もってほいへ
なっちゃった...

タクミさ...!?











姉さん...

凄く色っぽい

?!



大丈夫だよ

これからもっと
いっしょに
あげるから

あ…あなたは
弟なんですよ…？

血が…繋がって
いるんですよ…？

今更何を言っても
僕を止めることは
できないよ

姉さん

あああ…っ
痛い…いた…

いぢあああ……！



いや…そんなの…
入らな…

だめ…いや…
こわれちゃ…

お腹…
押し上げられる…

なに…なにこれ…
太いのが入って…

ズズズ…

やっ…

みち

がっ



みち

いや…!!

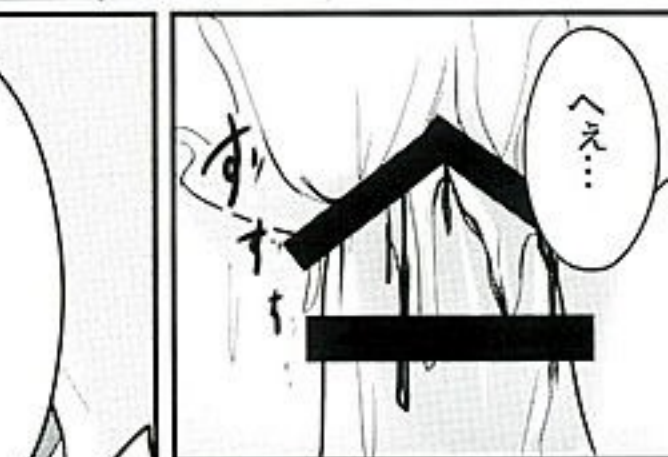
いやああああ!!

みち

姉さんの一番奥まで
挿れてあげるよ

あっ

か…





嫌という割には
すごく滑りが良い
みたいだけど!

ちが…!

違うの!!

や…!

あ…!



濡らさかっへん…

本当は僕に
こうされたかったん
じゃない?

弟に犯される
ことをさ…!





も...もう許してえ!!

んん、すず

すず

すず すず

は



タクミさん...!


タクミさん...

はあ

気持ちいい...
気持ちいいよ姉さん









お母様は弟が姉に
恋することを知っていて
弟に手紙を渡した


そしてそれを読んだ弟が
姉と恋人になろうとした



姉と弟は生き別れの
きょうだい



血の繋がりさえ
否定してしまえば
二人の間に恋が許される



…そんな…

嘘ですよね？

嘘なら僕は
夢の中であの遺書を
書くはずがないんだ

あなたに想いを
告げることもなかった

じゃあタクミさんは

私たちは本当に…

ごめん姉さん…

あなたにこのことを
告げてしまったら
僕たちはもうきょうだいには
戻れないんだよ…

もう…弟としても
あなたの傍にいられない

ただ弟の顔をして
あなたが他の奴の元へ行くのを
黙って見てるしかないんだよ！

それならいつぞ…！

もうやめくたさう…

はあ、

!?

はっ



どうして…

どうしていつも
私の話を聞いて
くれないのですか？



もう…
充分でしょう…？



実の姉と言われた女を
愛してしまったから
拒絶されるのが怖いのでは
ないですか!?

今だってあなたは…!




そんなに私の気持ちを
知ることが怖いのですか？




だから！

私を犯したのでは
ないのですか!?




タクミさんは…


私がどんな気持ちで
あの遺書を読んだのかも
分からないのでしょうか!?



私はあなたを
死なせたくなかった!!



大切なあなたを
守りたかった!!



例え一度裏切った路でも

私はあなたの傍に
戻りたかったのに…!!

ねえ…さん

こんなの…

こんなのひどいじゃ
ないですか…

私の気持ちはいつも
タクミさんには
届かないのですか…？

……き
なの？……

私も…

あなたのことが
好きなのに…！

姉さん…
今…なんて…？

私は……
タクミさんのことが
好き……！

恥ずかしい…
恥ずかしいでどうにか
なってしまうそう…



もう一度…

タクミさんを
愛しています



タクミさんが
好きです



もう一度…言ってみよう



弟としてじゃなく…
一人の男性として
タクミさんが好きです

血が繋がっていると
思っていたときから
あなたが好きでした



…ねえ



んっ…

んっ…

ちゅっ

ちゅっ

んっ…



スっ













そういえば…

私たちはきょうだい…
でしたね

うん

きょうだいでこんなこと
してるなんて
誰にも言えないね



ねえ…

もう一度だけしていい？

カムイ…姉さん

今の私と夢の中の私は
違う私なのかもしれない



それでも同じ私ならば…
例え別の世界で憎しみを
向けられたとしても
私は彼を受け入れたのだろう

きょうだいは

別の世界の私も
弟を…タクミさんを心から
愛したのだと思うから—





大きい……
私でこんなに大きくしてく
れるんだ…



挿れただけなのに
イった？

おあん！



なんだか姉さんばかり
イっててするいよ...

だ...だって...
タクミさんのが
気持ちよくて...



ね...姉さんが
こんなにいやらしいなんて
思わなかったよ

タ...タクミさんこそ
さっきから私のこと
「姉さん」って呼んで
いますよね？

姉と弟で交わる
背徳感を楽しんで
いるのではないですか？



姉さんこそ...
僕に「姉さん」って
呼ばれたときの
締めつけすいよ？

本当は弟に
孕まされたいんじや
ないの？

そ...それは...
だめです

あなたはまだ…
表面上では私の
実の弟なんです

もし私が
妊娠したら…

姉さん

もう何回中出しされてると
思ってるの？
諦めて僕の子を孕んでよ

姉さんだって本当は
僕との子供が
欲しいんですよ？

ああ…そうだ
私の中には愛する人の
子種が注がれている

でも…

お母様は許して
くれるでしょうか…
私たちのこと

ギョッ…

うん

母上もきつと
喜んでくれるよ



姉さんがこんなに
乱れるなんて知ったら
どう思うかは
知らないけどね

そういうタクミさんこそ
私のこと「姉さん」って
呼び続けてるなんて
知られたら...

すん

あん

ゴッ



い...いきなりしちや
や...です...!

姉さんが余計なこと
言うからだよ



もう挿れっぱなしも
限界だよ...!

するから!

ぬちゅ

ぐ

ぬちゅ

あ

ん

ぐ

繋がってるってことが
見られてる...

私...弟だった恋人に
女にされてるんだ...

いっちゃん...
いっちゃんいます!!

僕で何度でも
いってよ!!

いいよ!
いって!

あ、
ん、
すぢゅ、

すぢゅ、

すぢゅ、

はあ、

はあ、

はあ、

あー、あー、

いっちゃん、
いっちゃん

いっちゃん

いっちゃん

いっちゃん

いっちゃん

はあ、

はあ、

いっちゃん

あん、

いっちゃん

いっちゃん



ああ…
ここに生まれたら
愛する人の子が…

私を…
孕ませて…♥

は…



ここにまた
出してあげるからね

姉さん



は、

あ、

あなたが好き…！
タクミさん！

私も好き…！

姉さん…っ！
カムイ姉さん！
好きだ…っ！



は、
は、

むに、

ん、

ん、
ん、

ん、
ん、

姉さん…
そろそろ…

私の…姉さんの
赤ちゃんの部屋に…

はっ…♡

いっせー…
種付けしてえ

姉さん孕んで!!
僕の子を孕んでよ!!

あーあーあー!!

身体が熱い…
これが幸せなんですネ…

はあ…

はあ

はあ

口付け…
してください

ん…

愛しています…
ずっと…ずっと…
ずっと…

私…あの夢を見てから
もう一度別の世界の私のことを
考えてみたくです

きっとあの世界の私も
心を支配されたタクミさんに
気付いていたなら

私は…
あなたを救えたのかも
しれません

それなのに私は…

カムイ

もし…あなたが僕を
見殺しにしたと
思っているのだとしたら…
それは違うよ

えっ…？

あの夢には
続きがあるんだ

僕があなたの目の前で
身投げした後……
気付いたら別の場所にいた

それでもう一度
あなたに会ったんだ

そして僕は
あなたに

心を支配された僕を
殺してほしいと
お願いするんだ

…じゃあ…

別の世界のタクミさんを
殺したのは…私…？

そんな顔
しないで…？

あなたは僕を
救ってくれたんだから

そして今もまた
僕を救ってくれた

私がタクミさんの
味方になったから…
ですか？

それもあるけど…

ねえ…
もう一度言っ
てよ

カムイが僕を
どう思っているか

か
あ
あ
あ

わ…私は…
タクミさんが好きです

弟としてじゃなくて…
一人の男性として
あなたを愛しています

だから…

もう私を遺して
死なないで…



ありがとう

その言葉を
待っていたんだ

ずっとね



あれから遺書の夢を
見ることはなくなった

どうしてあの夢を
見たのかは
未だに分からない

しかし別の世界で
タクミさんに恨まれたこと…
そして死なせてしまったこと…



それが別の世界の
私の未練となり
この世界の私に
見せたのだとしたら…

これも…

別の世界の
夢なのでしょうか



僕もそう思ったんだけど…
これは夢じゃないよ

これが別の世界の
僕が望んだ未来なんだ



君がいたから
僕は僕でいられた

だから僕はこれからも
カムイと一緒に生きて…
幸せになりたい

そ…それって…



でも…血が繋がって
いないとはいえ
僕たちは実の
きょうだいだった

僕たちの婚姻関係を
認めてもらうのは
一筋縄ではいかないと思う

……

私も同じだった

弟だから愛してはいけない
タクミさんに恋することは
許されない……と

それでも

誰に何と言われようとも
僕はカムイを愛してる

それだけは
変わらないから

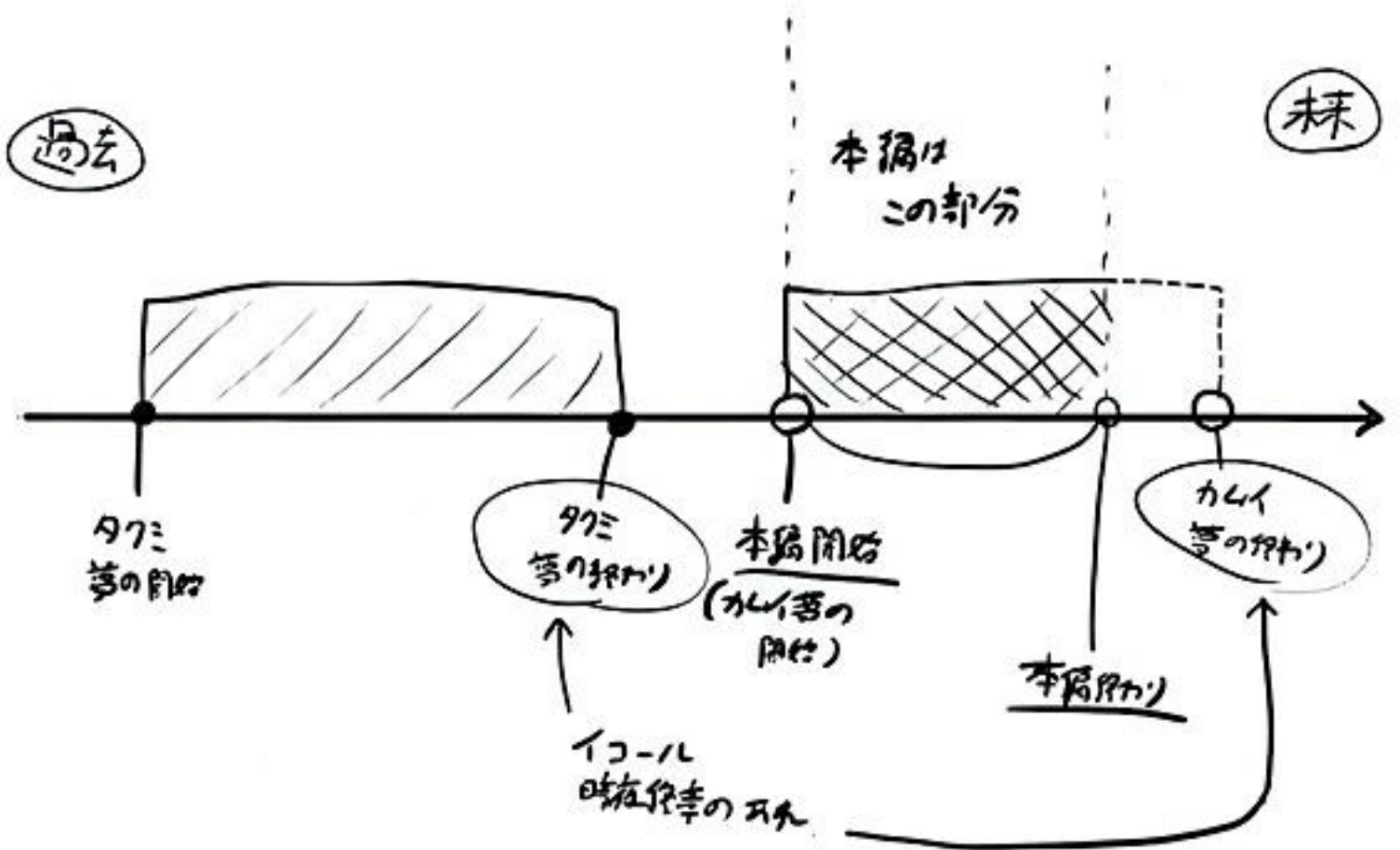
だから……
今度こそ

僕と



おまけ この本の時間の流れについて

* 時夜はパラレルワールドとして
夢と同じ時間軸に与えられた。



* カミの夢の終わりと夢で終わるのは
タクミと関係あることで未来が変わるからと思われる。

* この設定は非公認です



FIRE EMBLEM if fanbook
by RazChoco